

## 視覚文化のグローバル化

### ——映画ポスターの日英比較を受けて——

経済学類4年 林 佐和子<sup>1</sup>

#### <概 要>

近年のグローバル化の進行は著しく、私たちの日常には異文化が溢れている。言語文化・文字文化においても顕著であり、この影響を受けて様々な伝統的文化は変化している。その例として、文字文化の影響による「自然な目の動き」が存在し、それは日本語話者と英語話者とで異なるという(熊倉, 1990)。この目の動きの文化、視覚文化も文明開化により統一性が失われてきていると熊倉は論じている。本研究では、この視覚文化に着目し、グローバル化以前と現代とでは日本語話者の視覚文化と英語話者の視覚文化には実際に変化が起きているのかをデータを用いて考察し、どのように変化したか、それを形作った言語文化にはどのような変化が起きているかを明らかにする。また、日英のデータの比較により変化の原因は何であるかを考察した。調査の対象として、言語圈によって変更されることが多く各言語話者の好みを反映している視覚表現である「映画ポスター」を用いた。

#### <キーワード>

視覚文化、文字文化、映画ポスター、グローバル化、日本語話者と英語話者

---

<sup>1</sup> arws12@icloud.com

## <目 次>

1. はじめに
2. 先行研究
3. 仮説
4. 調査方法・分析対象
5. 結果・考察
  - 5.1. 視覚文化的観点からの考察
  - 5.2. 好まれる視覚表現についての考察
6. 結論・展望

## 1. はじめに

グローバリゼーションという言葉をよく耳にする。20 世紀後半から本格的に始まったグローバリゼーションは現在も進行し続けている。21 世紀に入ると、インターネットの普及、世界的な法制度の整備などにより、カネ・モノ・ヒト・情報全ての行き来がますます簡単になり激しくなっている。

このグローバリゼーションの進行は、文化にも影響を与える。様々な文化的背景を持った人々や情報が我々の生活の中に溢れ、そのようなヒト・モノ・情報に触れる機会が多くなっている現代ではグローバル化が進行する以前よりも異文化に対する違和感が少なくなっているに違いない。異文化を受け入れやすい世界になっているとも言えよう。しかし伝統的な文化も失われているのではないかと懸念することも出来る。

文化の中で言語文化というのはその国の人々に一番深く根付いている文化であろう。そしてなかなか変えられないものであり、他国の言語文化を受け入れること、習得することは簡単なことではない。しかし、他国の言語、現代であれば世界共通語になった「英語」は世界に溢れ日本に暮らしていても日常の一部になっている。言語文化についてもグローバル化が進んでいる。言語文化が文化の根底にあり、他の様々な文化に影響を与えるとすれば、言語文化のグローバル化は文化のグローバル化を急速に進めることになるだろう。

熊倉(1990)は、物の見方は言語圏によって違いがあり、伝統的な目の動きが存在すると論じる。しかしながら、その視覚文化も現代では統一性がなくなってきたと述べている。

本研究ではこの視覚文化に着目し、日本語話者、英語話者の視覚文化がグローバル化以前と現代とではどのように変化したか、人々の視覚文化、それを形作った言語文化にはどのような変化が起きているかを、映画ポスターを用いて検証する。

## 2. 先行研究

人はモノを見る時、どのように目が動くのだろうか。物事や物体のどの部分が最初に目に入りどのように全体を捉えるのだろうか。その目の動きには、統一性があり、自然な目の動きというのは日本語話者である日本人と英語話者たちとは違いがあると熊倉は述べる。

「野球のダイヤモンド一周でも、トラック競技でも、西洋の見世物は、観客の立場から見てすべて時計の針とは逆方向に進行する。」(熊倉, 1990, p. 2)という。つまり、英語圏の文化は鑑賞者の目が左から右へ動くようになっているということである。

このような視覚文化が生み出された背景には、「左から右に書くという文字の

文化がある」からだ」と熊倉は述べる。(熊倉, 1990, p. 4) この文字のシステムが自然に欧米人の目の動きを左から右へ流れるものにした。一方で日本語話者の自然な目の動きというのは、英語話者の自然な目の動きとは正反対に動く。日本語話者は、右から左へ目が動くのだ。それは日本では伝統的に、縦書きの書物や絵巻物の形式によって、右から左へという動きに慣らされてきたからであり、西欧語話者たちの視覚文化の形成と同じ理由で日本人の自然な目の動き、視覚文化が形成されたと言える。

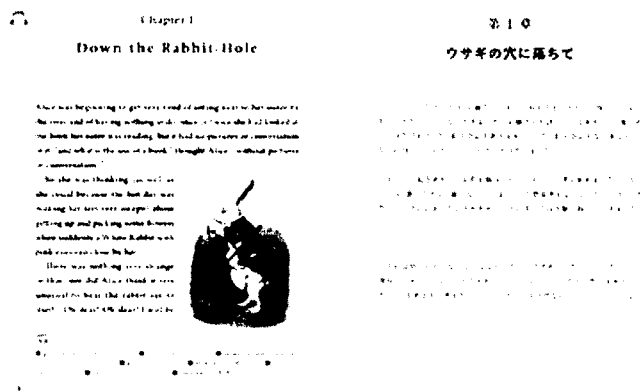
#### <西欧語話者の自然な目の動き>

- 左から右へ動く
- 左から右に書くという文字文化の影響

#### <日本語話者の自然な目の動き>

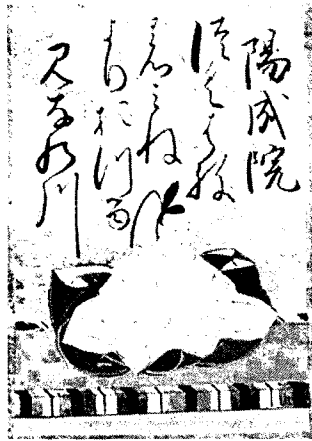
- 右から左へ動く
- 縦書きの書物や巻物の形式の影響

#### ※英文の左横書きの例



<sup>2</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjNiNn\\_w8vRAhXG1JQKHUZWb5UQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fwww.ibcpub.co.jp%2Fimgt%2F9784794601575.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNHaszSagCdroLiS7zArMt5G82bPXA&ust=1484823293664312](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjNiNn_w8vRAhXG1JQKHUZWb5UQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fwww.ibcpub.co.jp%2Fimgt%2F9784794601575.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNHaszSagCdroLiS7zArMt5G82bPXA&ust=1484823293664312)

※日本の縦書きの例



3

しかしながら、近年では、グローバル化の進行、インターネットの普及により世界のどこにいても、異文化に触れる機会が数多くある。また、拙論がそうであるように日本人は左から右へ文章を書くこと、読むことがごく自然になってきている。このような社会の変化はわれわれ日本人の伝統的な目の動き、自然な目の動きを変化させているのではないだろうか。

熊倉は、「戦後の日本がそれまでは右から左だった横書きを欧米化してから、いやすでに明治の文明開化以来、日本人の目は欧米文化の影響によって、統一性のある動き方をしなくなった。」と述べる（熊倉，1990，p. 2）。「私たち日本人の目は、多かれ少なかれ見方の統一性を失っている」というのが熊倉の見解である（熊倉，1990，p. 2）。

たしかに、日本では戦前まで横書きであっても右から左へ書いていく「右横書き」が主流であった。それが戦後、欧米文化の影響を受け昭和 21 年、読売新聞社が左から右へ文字を横書きで書いていく「左横書き」を採用し、昭和 22 年には朝日新聞社が左横書きを採用、昭和 20 年代以降省庁の文書が縦書きから左横書きに変更された<sup>4</sup>。このように人々の日常の中に左横書きが溢れ一般的になって 70 年以上が経った今、私たち日本人は右横書きに出会うとの方が困難になっている。私たち日本人の「自然な目の動き」は欧米化していない方がおかしいことではないだろうか。

ただ、日本人の伝統的な目の動きは文字文化だけに残されているわけではな

<sup>3</sup> [https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&ved=0ahUKEwjokLVxMvRAhWHsJQKHfsOB\\_sQjBwIBA&url=https%3A%2F%2Fwww.shigureden.or.jp%2Fsource%2Fimg%2Fabout%2Ffuda%2F013.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNEdN8VyiCwNfp-pGhft1aSPoD8-eg&ust=1484823478859831&cad=rjt](https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&ved=0ahUKEwjokLVxMvRAhWHsJQKHfsOB_sQjBwIBA&url=https%3A%2F%2Fwww.shigureden.or.jp%2Fsource%2Fimg%2Fabout%2Ffuda%2F013.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNEdN8VyiCwNfp-pGhft1aSPoD8-eg&ust=1484823478859831&cad=rjt)

<sup>4</sup> 屋名池(2003, p. 170)

い。熊倉(1990, pp11)によると、伝統的な演劇空間は上手から下手へ開かれているものであり(観客から見て右から左)、ハレからケの世界が展開するように作られていた。そして観客は上手の主人公の立場で舞台を見ていたため、上手から下手へ(右から左へ)自然に目が動くというのは日本人にとっての物の見方として伝統的な意味を持つものであり、自然な物の見方として日本人の文化に根付いてきたのである。

この伝統的な物の見方を小津安二郎監督は映画中の人や物の動きに取り入れ、作品作りをしたと熊倉(1990)は論じる。具体的には、遠景が左方向に向かって開かれている画面の場合、右から左に何かが動いたり進んだりするように構成されており、自然に調和した動きをきちんと取り入れた映画になっているという。また、左から右へ何かが進むときは何か非日常なことが起こる前兆として映画内に盛り込まれており、小津は日本人の伝統的な目の動きに配慮して映画を作っていたのであろう。

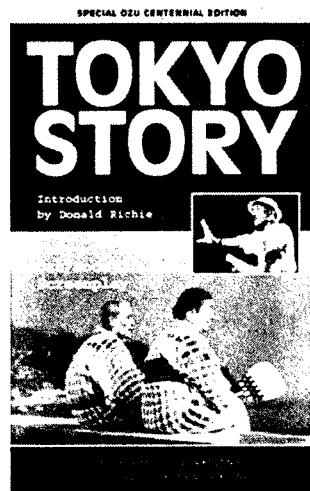
そこで林(2016, p. 15)は、伝統的な目の動きが映画中にも取り入れられているという熊倉の指摘に基づいて、映画ポスターにもその伝統的な目の動きが反映されていることを例証した。例えば、小津監督の「東京物語」のポスターを例に挙げ以下のように論じている。

伝統的な物の見方にも、日本語話者と英語話者とでは違いがあるということに着目して日米の映画ポスターを比較したところ、視覚文化を反映した映画ポスターを発見することが出来た。



(原版)

1953 年公開 日本映画 「東京物語」／「TOKYO STORY」



(米版)

その監督が撮った「東京物語」のポスターにもやはり日本人的な目の動きが盛り込まれていたと思われる。左側の日本版ポスターを見ると、人物は左を向いており右から左へ出てきたような構成になっている。

それと比較して、右側のアメリカ版ポスターは人物が右を向いたポスターに変更されている。これは、左から右へ物を見るのが自然である英語話者にとって日本版ポスターは不自然であり、受け入れがたいため変更されたのではないかと考えられる。

このように、映画ポスターの中にも熊倉の言う文字文化を反映した「自然な物の見方」も表れている作品が多く存在することが分かった。その顕著な例としてオランダ映画「ダンサー・イン・ザ・ダーク」がある (林, 2016, p. 17)。

<sup>5</sup> 「YAHOO!JAPAN 映画：東京物語」

<http://movies.yahoo.co.jp/movie/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E7%89%A9%E8%AA%9E/136157/> 2015 年 10 月アクセス

<sup>6</sup> 「Amazon Try prime : Tokyo-Story: The Ozu/Noda screen play」

<http://www.amazon.com/Tokyo-Story-The-Noda-Screenplay/dp/1880656809>  
2015 年 10 月アクセス



7

(原版)



8

(日本版)

左側が、原版であり西欧語話者、英語話者たちに向けた映画ポスターである。主人公の少女が右を向いており、左から右へ向かうような構図になっている。それに対し、日本版の映画ポスターは、原版を反転させたように少女が左を向いており、右から左へ向かうような映画ポスターになっている。ポスターに使用されているカットはどちらも同じようであるため、あえて反転させる必要はないように思えるが、熊倉の言う「自然な目の動き」が映画ポスターに反映されているのであれば、それに従って、日本語話者がポスターを見たときにより自然な目の動きが出来るように右から左へ鑑賞するポスターになっていると言えるのではないかな。

上記の先行研究を受け、ポスターに表れる視覚文化と、時代の移り変わりに伴うその変容について調査することにした。次章から詳しく論じる。

### 3. 仮説

以上の先行研究を受けて、二つの仮説を立てる。

仮説1：伝統的な「自然な目の動き」が映画ポスターにも反映されている

7 「Wikipedia : Dancer In The Dark」 [https://en.wikipedia.org/wiki/Dancer\\_in\\_the\\_Dark](https://en.wikipedia.org/wiki/Dancer_in_the_Dark) (2015年9月アクセス)

8 「YAHOO!JAPAN 映画：ダンサー・イン・ザ・ダーク」 <http://movies.yahoo.co.jp/movie/%E3%83%80%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%B6%E3%83%BB%E3%83%80%E3%83%BC%E3%82%AF/162566/> (2015年9月アクセス)



仮説 2：近年では「自然な目の動き」は失われつつあり、映画ポスターにも表れている

この仮説を検証するために、それぞれについて具体的な作業仮説を立てる。  
仮説 1 についての作業仮説を以下のようにする。

<作業仮説 1>

50 年前の映画ポスターには、伝統的な「自然な目の動き」が顕著に表れている。

<作業仮説 2>

近年の映画ポスターには、伝統的な「自然な目の動き」を反映したポスターはほとんど認められない。

現代と比較する年代を「50 年前」と設定した。その時代は、日本の映画黎明期であり、映画自体の数が多数存在し、映画ポスターの原版データが比較的収集しやすいことから、この時代に設定した。

#### 4. 調査方法・分析対象

作業仮説 1 を検証するために、以下の調査を行う。

- ① 1950 年から 1960 年までの 10 年間の北米での興行収入が高い洋画 1 位から 10 位までのポスターの原版を、収集する。
- ② 1950 年から 1960 年までの 10 年間の日本での興行収入が高い邦画 1 位から 10 位までのポスターの原版を収集する。

作業仮説 2 を検証するために、以下の調査を行う。

- ③ 2006 年から 2016 年までの 10 年間の北米での興行収入が高い洋画 1 位から 10 位までのポスターの原版を収集する
- ④ 2006 年から 2016 年までの 10 年間の日本での興行収入が高い邦画 1 位から 10 位までのポスターの原版を収集する

それぞれ収集したポスターについて、以下の方法でグループ分けをする。

- A. 一人、あるいは複数の人物や物体が左を向いているもの、右から左へ向かっていくもの：左(日本的)

以下に例を示す。

1. <sup>9</sup>



2. <sup>10</sup>



3. <sup>11</sup>



4. <sup>12</sup>



<sup>9</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjCg6qetcvRAhXDrJQKHcN4AyYQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fotaniocinema.cocolognifty.com%2Fblog%2Fimages%2F2012%2F05%2F13%2Fjiyuugakkou1.jpg&psig=AFQjCNFkSSstuhRqDjMwKx\\_MhgHCwVHxsLQ&ust=1484819338880861](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjCg6qetcvRAhXDrJQKHcN4AyYQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fotaniocinema.cocolognifty.com%2Fblog%2Fimages%2F2012%2F05%2F13%2Fjiyuugakkou1.jpg&psig=AFQjCNFkSSstuhRqDjMwKx_MhgHCwVHxsLQ&ust=1484819338880861)

<sup>10</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwigk66YvsjRAhUCy7wKHcyQAYAQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fgenir.sakura.ne.jp%2Fsaburiposterjpg00011.jpg&psig=AFQjCNE4xAjLm7MRGXnpITe\\_q\\_RMlyZgg&ust=1484718660837125](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwigk66YvsjRAhUCy7wKHcyQAYAQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fgenir.sakura.ne.jp%2Fsaburiposterjpg00011.jpg&psig=AFQjCNE4xAjLm7MRGXnpITe_q_RMlyZgg&ust=1484718660837125)

<sup>11</sup> [https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwixbT1tMvRAhUMV7wKHUIxAvQQjBwICA&url=https%3A%2F%2Fupload.wikimedia.org%2Fwikipedia%2Fcommons%2F9%2F95%2FGojira\\_1954\\_Japanese\\_poster.jpg&psig=AFQjCNF5ZuTmNgNLYKMRMfd9SgST6\\_Xw9g&ust=1484819259549803](https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwixbT1tMvRAhUMV7wKHUIxAvQQjBwICA&url=https%3A%2F%2Fupload.wikimedia.org%2Fwikipedia%2Fcommons%2F9%2F95%2FGojira_1954_Japanese_poster.jpg&psig=AFQjCNF5ZuTmNgNLYKMRMfd9SgST6_Xw9g&ust=1484819259549803)

<sup>12</sup> <http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEWj0hZ6tcvRAhVBNpQKHS1RCsMQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fblog-images-32-origin.fc2.com%2F%2Fd%2Fy%2Fjdyk060911%2F20090118174727.jpg&psig=AFQjCNGtAWtsFBS2yM7iV4OwyFiEQBXMPA&ust=1484819404631902>

5. <sup>13</sup>



6. <sup>14</sup>



Aの説明：

1. 自由学校／1950 年公開(日本)：人物全員が左を向いている
2. 麦秋／1951 年公開(日本)：画面半分を、左を向いた人物一人が占めている
3. ゴジラ／1954 年公開(日本)：画面半分を、左を向いた物体が占めている
4. 007 慰めの報酬／2007 年公開(米)：人物一人が左を向き、左に向かうような構図である
5. ゲド戦記／2006 年公開(日本)：画面半分を、左を向いた物体が占めている
6. 武士の一分／2007 年公開(日本)：画面半分を、左を向いた物体が占めている

B 一人、あるいは複数の人物や物体が右を向いているもの、左から右へ向かっていくもの：右(米的)

以下に例を示す。

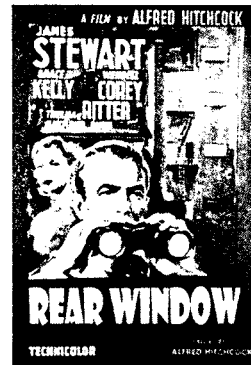
<sup>13</sup> <http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwirmNOftsvRAhWMFpQKHRVZAIQQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Funhappy.up.n.seesaa.net%2Funhappy%2Fimage%2Fgedosenki1.jpg%3Fd%3Da1&psig=AFQjCNHCFILMRi7v4BJhZK7MVvKDUlXYcQ&ust=1484819530185355>

<sup>14</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjpY6ztsvRAhUIF5QKHVGNAF8QjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fwww.memoriesofmovie.com%2Fwpcontent%2Fuploads%2F2015%2F08%2Fbushi\\_no\\_ichibun.jpg&psig=AFQjCNETNj2JiEZ8eOO5JslEPrADaEyARw&ust=1484819655802761](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjpY6ztsvRAhUIF5QKHVGNAF8QjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fwww.memoriesofmovie.com%2Fwpcontent%2Fuploads%2F2015%2F08%2Fbushi_no_ichibun.jpg&psig=AFQjCNETNj2JiEZ8eOO5JslEPrADaEyARw&ust=1484819655802761)

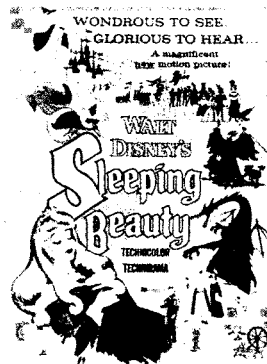
1. 15



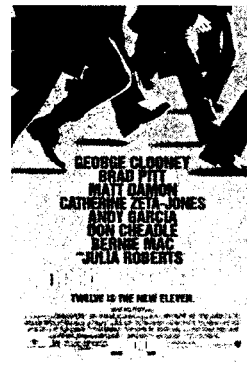
2. 16



3. 17



4. 18



<sup>15</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiilLaMuMvRAhWBHpQKHTFwB1MQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fkin.eart.net%2Fxls%2Fuploads%2Fwebphoto%2Flarges%2Fs00563s4e27dc160e827.jpg&psig=AFQjCNHbx-tkJ6fbYVvk17UW4\\_MaPWmMVA&ust=1484820107606907](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiilLaMuMvRAhWBHpQKHTFwB1MQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fkin.eart.net%2Fxls%2Fuploads%2Fwebphoto%2Flarges%2Fs00563s4e27dc160e827.jpg&psig=AFQjCNHbx-tkJ6fbYVvk17UW4_MaPWmMVA&ust=1484820107606907)

<sup>16</sup> <http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwj7s4aiuMvRAhWDMJQKHQpDnMQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fmoviefan.jp.moo.jp%2Findex%2Fwp-content%2Fuploads%2F2016%2F05%2F%25E8%25A3%25EF%25E7%25AA%2593.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGWIMgCQywdMFs5HyCL8oN7vjQaOg&ust=1484820152140053>

<sup>17</sup> <http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwigvJyuMvRAhWLHJQKHdzaAZkQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fwinga.uctions.c.yimg.jp%2Fsim%3Ffurl%3Dauctions.c.yimg.jp%2Fimages.uctions.yahoo.co.jp%2Fimage%2Fra115%2Fusers%2F6%2F3%2F5%2F0%2Fksshop426img450x6001461988177azwehh949.jpg%26dc%3D1%26sr.fs%3D20000&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNH2pkLC4pb8TcMsgZfbaNhFEBt0Q&ust=1484820204137656>

<sup>18</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi1zbi8usvRAhVBI5QKHxvFBrUQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimage.akuten.co.jp%2Faucartis%2Fcabinet%2Fp0467.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNEBHJd3C0V\\_j-1FA2k0ieKjd9CR4w&ust=1484820700631733](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi1zbi8usvRAhVBI5QKHxvFBrUQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimage.akuten.co.jp%2Faucartis%2Fcabinet%2Fp0467.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNEBHJd3C0V_j-1FA2k0ieKjd9CR4w&ust=1484820700631733)

5. <sup>19</sup>



6. <sup>20</sup>



Bの説明：

1. ローマの休日／1953 年公開(米)：画面半分を左側に配置され、右側を向いた人物二人が占めている
2. 裏窓／1954 年公開(米)：画面半分を左側に配置され、右側を向いた人物二人が占めている
3. 眠れる森の美女／1959 年公開(米)：画面半分を左側に配置され、右側を向いた人物一人が占めている
4. オーシャンズ 12／2012 年公開(米)：画面左から右へ向かう構図
5. レミーの美味しいレストラン／2007 年公開(米)：画面左から右へ物体が向かう構図
6. コクリコ坂から／2011 年公開(日本)：人物一人が右を向いている

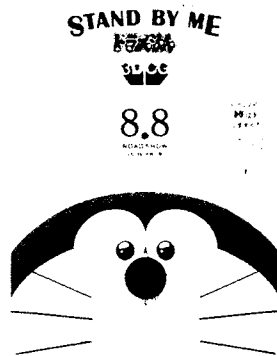
C 一人、あるいは複数の人物や物体が正面を向いているもの、複数の人物が多方向を向いているもの、向きが定まらないもの：なし(向きなし)

以下に例を示す。

<sup>19</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiyvr3pusvRAhWBKJQKHUfgCBgQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimage.rakuten.co.jp%2Fauc-artis%2Fcabinet%2Fp-0722.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGZMztrm-zWh329NuZjRh41to2\\_w&ust=1484820833393056](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiyvr3pusvRAhWBKJQKHUfgCBgQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimage.rakuten.co.jp%2Fauc-artis%2Fcabinet%2Fp-0722.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGZMztrm-zWh329NuZjRh41to2_w&ust=1484820833393056)

<sup>20</sup> <http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjb7L2cu8vRAhXLJJQKHd1FDW0QjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fcdnak.f.sthatena.com%2Fimages%2Ffotolife%2Fh%2Fhidecr%2F20110718%2F20110718104222.jpg&psig=AFQjCNE3WJdZkT9UqM0dYXulJO75xDJHAA&ust=1484820910588856>

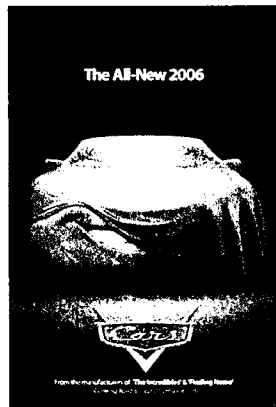
1. <sup>21</sup>



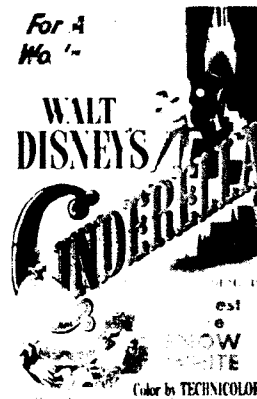
2. <sup>22</sup>



3. <sup>23</sup>



4. <sup>24</sup>



<sup>21</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https://iwizmovies.c.yimg.jp/c/movies/pict/p/p/2f/35/163994\\_02.jpg&imgrefurl=http://movies.yahoo.co.jp/movie/STAND%2BBY%2BME%2B%25E3%2583%2589%25E3%2583%25A9%25E3%2581%2588%25E3%2582%2582%25E3%2582%2593/348264/&h=1696&w=1200&tbnid=x695zBOMKJSEeM:&vet=1&tbnh=186&tbnw=131&docid=ujqvlWVB4S2QwM&itg=1&usg=\\_\\_dFryxo2LewxOSaUlljaT3cES5\\_g=&sa=X&ved=0ahUKEwjpsYSCvsvRAhWDvrwKHXXZkD4QQ\\_BOIfTAK](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https://iwizmovies.c.yimg.jp/c/movies/pict/p/p/2f/35/163994_02.jpg&imgrefurl=http://movies.yahoo.co.jp/movie/STAND%2BBY%2BME%2B%25E3%2583%2589%25E3%2583%25A9%25E3%2581%2588%25E3%2582%2582%25E3%2582%2593/348264/&h=1696&w=1200&tbnid=x695zBOMKJSEeM:&vet=1&tbnh=186&tbnw=131&docid=ujqvlWVB4S2QwM&itg=1&usg=__dFryxo2LewxOSaUlljaT3cES5_g=&sa=X&ved=0ahUKEwjpsYSCvsvRAhWDvrwKHXXZkD4QQ_BOIfTAK)

<sup>22</sup> [https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi4kZ7RvsvRAhVKgbwKHQkFCScQjBwIBA&url=https%3A%2F%2Fiwizmovies.c.yimg.jp%2F%2Fmovies%2Fpict%2Fp%2Fp%2Ffe%2F6d%2F144602\\_01.jpg&psig=AFQjCNG3j5E3c4\\_hrZYJB-Wm\\_WqO3N\\_jkQ&ust=1484821861636701](https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi4kZ7RvsvRAhVKgbwKHQkFCScQjBwIBA&url=https%3A%2F%2Fiwizmovies.c.yimg.jp%2F%2Fmovies%2Fpict%2Fp%2Fp%2Ffe%2F6d%2F144602_01.jpg&psig=AFQjCNG3j5E3c4_hrZYJB-Wm_WqO3N_jkQ&ust=1484821861636701)

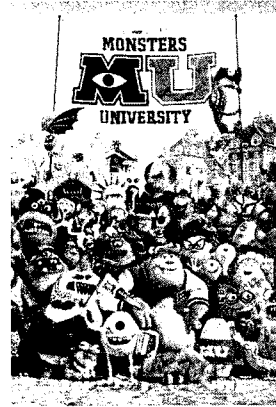
<sup>23</sup> <https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiH8OKCv8vRAhWMerwKHcyBBAQjBwIBA&url=https%3A%2F%2Fpic.prepicscdn.com%2Fpib42724712%2F15301848.jpeg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNFCRKpLdb9hQWqC87R8v5YYnET7xw&ust=1484821965940987>

<sup>24</sup> [https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjY3f2Yv8vRAhVFWLwKHdAXDW8QjBwICA&url=https%3A%2F%2Fmediacacheak0.pining.com%2F564x%2Fdf%2F38%2Fba%2Fdf38baeed75d988a6fd5decbb689f354.jpg&psig=AFQjCNEKbKWz\\_JyzfaQ6AauXXq2vJJJerg&ust=1484822018509685](https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjY3f2Yv8vRAhVFWLwKHdAXDW8QjBwICA&url=https%3A%2F%2Fmediacacheak0.pining.com%2F564x%2Fdf%2F38%2Fba%2Fdf38baeed75d988a6fd5decbb689f354.jpg&psig=AFQjCNEKbKWz_JyzfaQ6AauXXq2vJJJerg&ust=1484822018509685)

5. <sup>25</sup>



6. <sup>26</sup>



Cの説明：

1. STAND BY ME ドラえもん／2014 年公開(日本)：人物一人が正面を向いている
2. THE 有頂天ホテル／2013 年公開(日本)：大勢の人物が様々な方向を向いている
3. カーズ／2006 年公開(日本)：一つの物体が正面を向いている
4. シンデレラ／1950 年公開(米)：向きが特定できない
5. 地獄門／1953 年公開(日本)：二人の人物が様々な方向を向いている
6. モンスターズ・ユニバーシティ／2013 年公開(米)：大勢の人物が正面を向いている

D 原版のデータが入手できないもの：N(データなし)

以下に例を挙げる。

<sup>25</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwju\\_u0v8vRAhWJWrwKHaMrCNcQjBwICA&url=http%3A%2F%2Fpds.blog.jp%2Fpds%2F1%2F201012%2F18%2F79%2Fb0057679\\_8381065.jpg&psig=AFQjCNGZCU0xDYKejDfCUh1jvVnmniCjqw&ust=1484822077017913](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwju_u0v8vRAhWJWrwKHaMrCNcQjBwICA&url=http%3A%2F%2Fpds.blog.jp%2Fpds%2F1%2F201012%2F18%2F79%2Fb0057679_8381065.jpg&psig=AFQjCNGZCU0xDYKejDfCUh1jvVnmniCjqw&ust=1484822077017913)

<sup>26</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fheartattackannex2013.web.fc2.com%2F03%2F13031201%2F13031201\\_Monsters\\_University\\_00.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fheartattack507.blog84.fc2.com%2Fblogentry4006.html&docid=YxxKPcBI3dA1uM&tbnid=hW0\\_BJEPxtDstM%3A&vet=1&w=1080&h=1600&bih=627&biw=1366&q=%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%83%A6%E3%83%8B%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%80%80%E6%98%A0%E7%94%BB%E3%83%9D%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC&ved=0ahUK EwiT15fgv8vRAhVGvbwKHW6MCAMQMwgdKAMwAw&iact=mrc&uact=8](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fheartattackannex2013.web.fc2.com%2F03%2F13031201%2F13031201_Monsters_University_00.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fheartattack507.blog84.fc2.com%2Fblogentry4006.html&docid=YxxKPcBI3dA1uM&tbnid=hW0_BJEPxtDstM%3A&vet=1&w=1080&h=1600&bih=627&biw=1366&q=%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%83%A6%E3%83%8B%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%80%80%E6%98%A0%E7%94%BB%E3%83%9D%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC&ved=0ahUK EwiT15fgv8vRAhVGvbwKHW6MCAMQMwgdKAMwAw&iact=mrc&uact=8)

1. 月の渡り鳥／1950 年公開(日本)
2. 呼子屋／1951 年公開(日本)
3. 学生社長／1952 年公開(日本)
4. アンデルセン物語／1952 年公開(米)
5. シネマホリデー／1955 年公開(米)
6. 夜を美しく／1959 年公開(米)

以上のように分類し、年代ごとでどのグループの割合が一位番高いかを算出する。また、算出した 1950 年から 1960 年までのデータと、2006 年から 2016 年までのデータを比較する。

## 5. 結果・考察

### 5.1. 視覚文化的観点からの考察

#### I. 1950 年代の日本国内における邦画の興行収入ランキング

1950	1951	1952	1953	1954
1 宗像姉妹	源氏物語	ひめゆりの塔	君の名は 第一部	君の名は 第三部
2 自由学校	大江戸五人男	お茶漬の味	君の名は 第二部	忠臣蔵 花の巻
3 佐々木小次郎	馬喰一代	ひばり姫	太平洋の鷲	七人の侍
4 続・佐々木小次郎	ようきな渡り鳥	夏子の冒険	地獄門	新 諸国物語
5 楊柳	銭形平次 恋文道中	波	金色夜叉	二十四の瞳
6 紅蝙蝠	麦秋	学生社長	花の生涯	月よりの使者
7 月の渡り鳥	呼子屋	銭形平次・捕物控	東京物語	ゴジラ
8 自由学校	続・佐々木小次郎	ハワイの夜	平家物語	宮本武蔵
9 銭形平次	完結・佐々木小次郎	現代人	叛乱	ハワイ珍道中
10 おぼろ駕籠	本日休診	千羽鶴	家族会議	哀愁日記

1955	1956	1957	1958	1959	1960
赤穂浪士 天の巻	任侠清水港	明治天皇と日口大戦争	忠臣蔵	任侠中仙道	天下を取る
修善寺物語	蜘蛛巣城	喜びも悲しみも幾らが	日の当たる坂道	日本誕生	を越える渡り鳥
ひばりチェミいづみ	恐怖の空中殺人	水戸黄門	紅の翼	怒涛の対決	闘牛に賭ける男
新 平家物語	曾我兄弟富士の夜襲	嵐を呼ぶ男	忠臣蔵 桜花の巻・菊花の巻	世界を賭ける恋	喧嘩太郎
亡命記	旗本退屈男	任侠東海道	闘し碧の三悪人	男が命を賭ける時	娘・妻・母
新 宮本武蔵	銭形平次 まだら蛇	大忠臣蔵	明日は明日の風が吹く	鉄火場の嵐	あじさいの歌
決闘巖流島	太陽の季節	錆びたナイフ	風速40米	人間の条件 第三部・第四部	水戸黄門
楊貴妃	月形半平太	夜の牙	日蓮と蒙古大襲来	水戸黄門 天下の副将軍	名もなく貧しく美しく
力道山物語	米	挽歌	人間の条件 第一・二部	男なら夢をみろ	ハワイミッドウェイ大航空戦 太平洋の嵐
夫婦善哉	歌う弥次喜多黄金道中	大当たり三色娘	彼岸花	天と地を駆ける男	新吾二十番勝負



## II. 1950 年アメリカにおける洋画の興行収入ランキング

1950	1951	1952	1953	1954	1955
1 シンデレラ	クオ・ヴァディス	これがシネマだ	ピーターパン	裏窓	わんわん物語
2 アニーと銃をとれ	アフリカの女王	地上最大のショウ	聖衣	ホワイト・クリスマス	シネマホリデー
3 キング・ソロモン	欲望という名の電車	黒騎士	地上より永遠に	海底二万哩	ミスター・ロバーツ
4 月世界征服	不思議の国のアリス	真星の決闘	肉の叛人形	デミトリアスと騎士	Galapagos
5 土曜はあなたに	That's My Boy	醜聞殺人事件	シェーン	ケイン号の叛乱	愛欲と戦場
6 腰抜け千両役者	巴里のアメリカー	アンデルセン物語	紳士は金髪がお好き	スタア誕生	七年目の浮気
7 The Miniver Story	Call Me Mister	The Story of Robin Hood and His Merry Men	ローマの休日	波止場	たくしき男たち
8 Wabash Avenue	Meet Me After the Show	ジャズ・シンガー	原子怪獣現る	ヴェラクルス	泥棒成金
9 星を持つ男	二世部隊	世界を彼の腕に	タタニックの最後	アパッチ	見知らぬ人でなく
10 悪友は泣かない	南仏夜話・夫は偽者	悪人と美女	円卓の騎士	豪傑カサノヴァ	The Left Hand of God
1956	1957	1958	1959	1960	
十戒	戦場にかける橋	南太平洋	ベン・ハー	南海漂流	
80日間世界一周	サヨナラ	メイム叔母さん	眠れる森の美女	サイコ	
ジャイアンツ	青春物語	熱いトタン屋根の猫	お熱いのがお好き	スバルタカス	
世界の七不思議	黄色い老犬	めまい	ペティコート大作戦	甘い生活	
王様と私	OK牧場の決闘	旅路	夜を美しく	栄光への脱出	
上流社会	武器よさらば	ヘラクレス	ボクはむく犬	アパートの鍵貸します	
戦争と平和	Bayou	Macabre	悲しみは空のかなたに	アラモ	
灰色の服を着た男	誇りと情熱	蠅男の恐怖	去年の夏突然に	パタフィールド8	
白鯨	日の当たる鳥	黒い罫	北北西に進路をとれ	オーシャンと十一人の仲間	
知りすぎた男	フランケンシュタインの逆襲	偽将軍	尼僧物語	のっぽ物語	

## III. 2006 年から 2016 年までの日本における邦画の興行収入ランキング

2006	2007	2008	2009	2010	2011
1 大団圓	HERO	崖の上のポニョ	ROOKIES-卒業-	借りぐらしのアリエッティ	コクリコ坂から
2 LIMIT OF LOVE 海猿	劇場版ポケットモンスター	花より男子ファイナル	劇場版ポケットモンスター	THE LAST MESSAGE 海猿	劇場版ポケットモンスター
3 THE 有頂天ホテル	ALWAYS 続・三丁目の夕日	容疑者Xの献身	20世紀少年<最終章>	踊る大捜査線 THE MOVIE3	ステキな金持リ
4 日本沈没	西遊記	劇場版ポケットモンスター	エヴァンゲリオン新劇場版	ワンピースフィルム	SPACE BATTLESHIP ヤマト
5 デスノート the last name	武士の一分	相棒-劇場版- 絶体絶命	アマルフィ 女神の報酬	劇場版ポケットモンスター	GANTZ
6 男たちの大和	恋空	20世紀少年	名探偵コナン 漆黒の追跡者	のだめカンタービレ 最終楽章	SPACE BATTLESHIP ヤマト
7 劇場版ポケットモンスター	映画ドラえもん 新魔界大冒険	ザ・マジックアワー	ごくせん THE MOVIE	告白	SP 革命編
8 映画ドラえもん のび太の恐竜	どろろ	映画ドラえもん のび太と緑の巨人	余命-か月の花嫁	のだめカンタービレ 最終楽章	相棒-劇場版-
9 涙そうそう	アンフェア the movie	マリと子犬の物語	ヤッターマン	SP 野望編	名探偵コナン 沈黙の15分
10 名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌	名探偵コナン 縦横の棺	L change the World	クロースZERO II	名探偵コナン	GANTZ パーフェクトアンサー
2012	2013	2014	2015	2016	
BRAVE HEARTS 海猿	風立ちぬ	永遠の0	映画 妖怪ウォッチ	君の名は。	
テルマエ・ロマエ	ワンピース フィルムZ	STAND BY MY ドラえもん	パケモノの子	シン・ゴジラ	
踊る大捜査線 THE FINAL	映画ドラえもん 秘密道具博物館	るろうに剣心 京都大火編	HERO	名探偵コナン 純黒の悪夢	
エヴァンゲリオン劇場版:Q	名探偵コナン 絶海の探偵	テルマエ・ロマエII	名探偵コナン 業火の向日葵	映画 妖怪ウォッチ	
おおかみこどもの雨と雪	真夏の方程式	るろうに剣心 伝説の最期編	映画ドラえもん 宇宙英雄記	ワンピースフィルムゴールド	
映画ドラえもん 奇跡の島	映画 謎解きはディナーのあとで	ルパン三世vs名探偵コナン	ドラゴンボールZ 復活の<F>	信長協奏曲	
劇場版ポケットモンスター	そして父になる	名探偵コナン 異次元のスナイパー	進撃の巨人	映画ドラえもん 日本誕生	
ALWAYS 三丁目の夕日'64	劇場版ポケットモンスター	映画ドラえもん のび太の大魔境	映画 びりギャル	暗殺教室 卒業編	
名探偵コナン 11人目のストライカー	ドラゴンボールZ	思いでのマーニーマーニ	ラブライブ!	オレンジ	
映画 怪物君	清須会議	ポケモン・ザ・ムービーXY	映画 暗殺教室	植物図鑑 運命の恋	

#### IV. 2006 年から 2016 年までのアメリカにおける洋画の興行収入ランキング

2012	2013	2014	2015	2016
アベンジャーズ	ハンガーゲーム2	アメリカンスナイパー	スターウォーズ フォースの覚醒	ファインディングドリー
ダークナイト・ライジング	アイアンマン3	ハンガーゲーム ファイナル	ジュレンツック ワールド	シビル・ウォー
ハンガー・ゲーム	アナと雪の女王	ガーディアンズ	アベンジャーズ	スーサイド・スクワッド
007 スカイフォール	怪盗グルーのミニオン危機一髪	キャプテンアメリカ	インサイドヘッド	ベット
ホビット 思いがけない冒険	マン・オブ・スティール	LEGO[R]	ワイルドスピード	ジャングル・ブック
トワイライト・サーガ	ゼロ・グラビティ	ホビット 決戦の行方	ミニオンズ	テッド・ブルー
アメイジング・スパイダーマン	モンスターズ・ユニバーシティ	トランスフォーマー ロストエッジ	ハンガーゲーム ファイナル	ズートピア
めりだと恐ろしの森	ホビット 竜に奪われた王国	マレフィセント	オデッセイ	パットマンvsスーパーマン
テッド	ワイルドスピード	X-MEN フェーチャーアドヴァース	シンデレラ	ローグ・ワン スター・ウォーズ
マダガスカル3	オズ始まりの戦い	ベイマックス	007 スペクター	世界一嫌いなあなたに

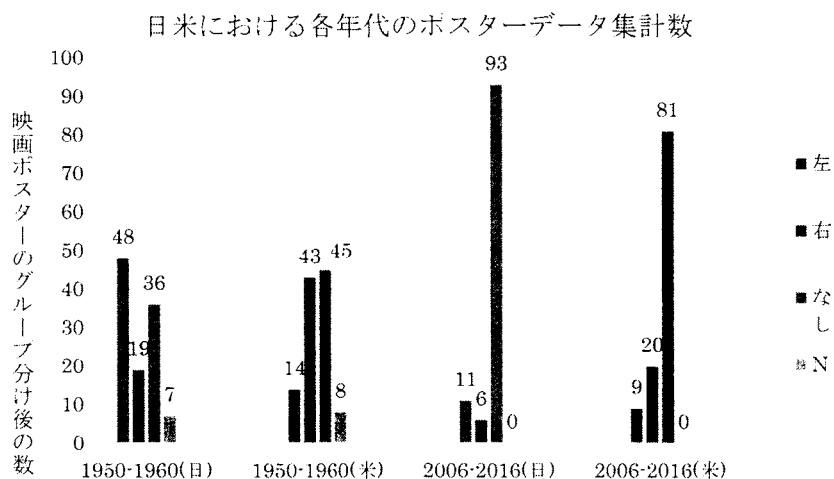
2006	2007	2008	2009	2010	2011
1 バイレツオブカリビアン	スパイダーマン3	ダークナイト	アバター	トイストーリー3	ハリーポッターと死の秘宝
2 ナイト ミュージアム	シュレック3	アイアンマン	トランスフォーマー リベンジ	アリスインワンダーランド	トランスフォーマー
3 カーズ	トランスフォーマー	インディジョーンズ	ハリーポッターと謎のプリンス	アイアンマン2	トワイライト・サーガ
4 X-MEN ファイナルエディション	バイレツオブカリビアン	ハンコック	ニュームーン	エクイプス	ハンガー・オーバー
5 ダ・ヴィンチ・コード	ハリーポッターと不死鳥の騎士団	ウォーリー	カールじいさんの空飛ぶ家	ハリーポッターと死の秘宝	バイレツオブカリビアン
6 300	アイアムレジェンド	カンフー・パンダ	ハンクオーバー!	インセプション	タイタニック
7 スーパーマン リターンズ	ボーン・アルティメタム	トワイライト 初巻	スタートレック	怪盗グルーの月泥棒	ミッドナイト・スワーム
8 ハッピー フィート	ナンヨアルトレジャー	マダガスカル2	幸せの隠れ場所	シュレックフォーエバー	カーズ2
9 アイス・エイジ2	アルビン 歌う三兄弟	007 影の報酬	アルビン2	ヒックとドラゴン	シャーク・ネームズ
10 007 カジノ・ロワイヤル	レミーのおいしいレストラン	ホートン ふしぎな世界のダレダーレ	シャーロックホームズ	塔の上のラプンツェル	マイティソー

表Ⅰ～Ⅳまでの作品<sup>27</sup>のポスターを、第4章の調査方法に従ってグループ分けした結果をまとめると下の表のようになる。

日本	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960
1	左	左	左	左	左	なし	なし	左右	なし	なし	なし
2	左	なし	左	左	なし	なし	左	右	右	左	左
3	左	右	なし	左	左	なし	左	左	左	左	右
4	左	なし	左	右	なし	左	左	左	左	左	右
5	なし	右	N	右	左	なし	なし	なし	左	左右	なし
6	なし	左	N	なし	左	なし	なし	なし	左	右	なし
7	N	N	左	N	左	なし	右	右	左	右	左
8	左	なし	右	左	左	左	左	右	左	右	なし
9	右	なし	右	なし	なし	左	N	左	左	右	なし
10	左	なし	なし	左	なし	右	なし	なし	なし	右	左
左右な	6 1 2 1	2 1 5 1	5 1 2 2	5 2 2 1	6 0 4 0	2 1 6 1	4 1 3 1	3 4 3 0	7 1 2 0	4 5 1 0	4 1 5 0
米	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960
1	なし	左	なし	なし	右	なし	右	右	なし	右	なし
2	なし	右	右	左	右	N	右	右	なし	右	左
3	右	右	左	なし	右	右	なし	左	左	なし	右
4	右	右	右	なし	N	N	右	右	右	なし	右
5	なし	なし	右	なし	左	なし	右	なし	なし	N	左
6	左	なし	N	なし	右	右	なし	右	なし	なし	なし
7	なし	右	右	右	なし	なし	右	右	なし	なし	右
8	なし	なし	右	右	左	右	左	なし	N	左	左
9	左	なし	右	右	なし	なし	右	N	なし	右	なし
10	右	N	なし	なし	右	なし	右	なし	なし	右	なし
左右な	2 3 5 0	1 4 4 1	1 5 3 1	1 3 6 0	2 5 2 1	0 3 5 2	1 7 2 0	1 5 3 1	1 1 7 1	1 4 4 1	3 3 4 0
日	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	左	なし	右	なし	右	右	なし	左	なし	なし	なし
2	なし	なし	なし	なし	左	なし	右	なし	なし	なし	左
3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	右	なし	なし
5	なし	左	なし	左	なし	なし	なし	右	なし	なし	なし
6	なし	なし	なし	なし	なし	左	なし	なし	なし	なし	なし
7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	左	なし
9	なし	なし	左	左	なし	なし	なし	なし	左	なし	なし
10	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
左右な	1 0 9 0	1 0 9 0	1 1 8 0	2 0 8 0	1 1 8 0	1 1 8 0	0 1 9 0	1 1 8 0	1 1 8 0	1 0 9 0	1 0 9 0
米	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	なし	右	左	右	なし	左	なし	左	左	なし	なし
2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	右	右	なし
3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	左	なし
5	なし	なし	なし	右	なし	なし	なし	右	なし	右	なし
6	左	なし	なし	なし	なし	なし	なし	右	なし	なし	なし
7	なし	右	なし	なし	なし	右	なし	なし	なし	右	右
8	なし	左	なし	なし	なし	右	左	なし	なし	なし	なし
9	なし	なし	なし	なし	なし	右	なし	なし	なし	右	左
10	右	右	右	なし	なし	なし	なし	なし	右	なし	なし
左右な	1 1 8 0	1 3 6 0	1 1 8 0	0 3 7 0	0 0 10 0	1 3 6 0	1 0 9 0	1 2 7 0	1 2 7 0	1 4 5 0	1 1 8 0

<sup>27</sup> 「年代流行」 <<http://nendai-ryuukou.com/>> (2016年10月アクセス)

上の表を集計し、グラフにまとめると次のようになる。



データ結果の考察に入る前に、それぞれのデータが等分散であり4群(左、右、なし、N)のデータの差が意味のあるものかどうかを検証しておく。この検証にはF検定を用いる<sup>28</sup>。

A : 1950-1960(日)

Response: score

	Df	Sum Sq	Mean Sq	F value	Pr(>F)
group	3	89.636	29.8788	15.076	1.027e-06 ***
Residuals	40	79.273	1.9818		

Signif. codes: 0 '\*\*\*' 0.001 '\*\*' 0.01 '\*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1

B : 1950-1960(米)

Response: score

	Df	Sum Sq	Mean Sq	F value	Pr(>F)
group	3	100.818	33.606	22.336	1.17e-08 ***

<sup>28</sup> 検定の仕方について、星野伸明先生(金沢大学経済学類教授)にご指導いただいた。記して感謝申し上げる。

```

Residuals 40 60.182 1.505
Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1
C: 2006-2016(日)
Response: score
      Df Sum Sq Mean Sq F value    Pr(>F)
group    3 525.55 175.182    940 < 2.2e-16 ***
Residuals 40 7.45 0.186
Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1
D: 2006-2016(米)
Response: score
      Df Sum Sq Mean Sq F value    Pr(>F)
group    3 365.18 121.727  122.28 < 2.2e-16 ***
Residuals 40 39.82 0.995
Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1

```

以上の結果より、A、B、C、Dはすべて「左」、「右」、「なし」、「N」はそれぞれ有意差があるといえる。

1950年-1960年までの日本の映画ポスターのデータから考察していく。グループの中で一番数が多かったのは「左」のグループ(日本的)である。これは他のグループに比べると圧倒的に数が多く、次に数の多い向き「なし」のグループとは10以上の差をつけた。「右」のグループ(米的)の数は「左」と比べると半分以下となった。ここで、「左」の数値、「右」の数値、また「なし」の数値についてそれぞれのデータに有意性があるか確かめるためにt検定を行う。母集団として、1950年-1960年までに公開された邦画の数<sup>29</sup>を調べたところ、1955年からのデータしかなかったため、母集団の数は「大量の母集団」と仮定した。

大量の母集団の中から、110個の標本を抽出し、グループ分けをしたところ、「左」の数は48、「右」の数は19、「なし」の数は36であった。母集団(1950年から1960年までに公開された全ての邦画)の「左」、「右」、「なし」率をそれぞれ95%の信頼度で検定する。

・抽出された標本に対する

「左」率は  $R=48/110=0.436363$

「右」率は  $R=19/110=0.172727$

「なし」率は  $R=36/110=0.327272$

<sup>29</sup> 「一般社団法人日本映画策製作者連盟」 <http://www.eiren.org/> (2017年1月アクセス)

検定より、母集団、つまり 1950 年から 1960 年に公開された全ての邦画作品についての「左」率は 35%～53%、「右」率は 9%～24%、「なし」率は 24%～41%となる。「左」と「なし」についてはそれほど差がないようであるが、「左」と「右」を比較するとその差は大きく、邦画ポスターは「左」に鑑賞するものが多いといえる。

一方同じ年代のアメリカでの映画ポスターについて考察していくと、一番数が多かったのは向き「なし」のグループであった。次点で「左」のグループ(米的)が多く、この二つの差は 2 しか変わらなかった。「右」のグループ(日本的)の数は上位二つのグループと比べると半分以下のデータ数となった。

1950 年代は、日米どちらにおいてもそれぞれの国の言語話者にとっての「自然な目の動き」を反映した映画ポスターの方がそうでないものよりも多いことが分かった。しかし、向きが決められていないポスターや、目の動きが定まらないポスターも多い。

洋画についても邦画と同じ手順で t 検定を行う。洋画についても、母集団の数は「大量の母集団」と仮定した。

大量の母集団の中から、110 個の標本を抽出し、グループ分けをしたところ、「左」の数は 14、「右」の数は 43、「なし」の数は 45 であった。母集団(1950 年から 1960 年までに公開された全ての邦洋画)の「左」、「右」、「なし」率をそれぞれ 95%の信頼度で検定する。

・抽出された標本に対する

「左」率は  $R=14/110=0.127272$

「右」率は  $R=43/110=0.390909$

「なし」率は  $R=45/110=0.4090909$

検定より、母集団、つまり 1950 年から 1960 年に公開された全て洋画作品についての「左」率は 7%～19%、「右」率は 30%～48%、「なし」率は 30%～49%となる。「右」と「なし」についてはほとんど差がない。これは、日本よりもより差のないものになっている。同じように「左」と「右」を比較するとその差は大きく、洋画ポスターは「右」に鑑賞するものが多いといえる。また、日本と比べると向きがない物の比率が大きいことが分かった。邦画の方が僅かではあるが鑑賞する「向き」についての意識が強かったようである。

続いて、2006 年から 2016 年までの日本における邦画ポスターについて考察する。1950 年代のデータとは打って変わって一番数の多いグループは向き「なし」であった。この数は圧倒的であり全データの 8 割以上を占めた。続いて多いものは「左」のグループであった。日本語話者が「自然な目の動き」で鑑賞す

ることの出来る「左」グループのポスターの方が「右」のグループである米的な目の動きで鑑賞するポスターよりは多いが、その差はごくわずかであった。

現代の邦画、洋画ポスターに関しても上と同じ手順で検定を行う。それぞれについての母集団となる 2006 年から 2016 年までに公開された全ての邦画、洋画の作品数は「大量の母集団」と仮定した。

2006 年から 2016 年までに公開された邦画について、大量の母集団の中から、110 個の標本を抽出し、グループ分けをしたところ、「左」の数は 11、「右」の数は 6、「なし」の数は 93 であった。母集団(2006 年から 2016 年までに公開された全ての邦画)の「左」、「右」、「なし」率をそれぞれ 95%の信頼度で検定する。

・抽出された標本に対する

「左」率は  $R=11/110=0.1$

「右」率は  $R=6/110=0.0545$

「なし」率は  $R=93/110=0.8454$

検定より、母集団、2006 年から 2016 年に公開された全ての邦画作品についての「左」率は 4%～16%、「右」率は 1%～9%、「なし」率は 78%～92%となる。自然な目の動きどころか、特定の「目の動き」を取り入れているポスターがほとんどないことが分かる。

また、同年代の洋画についても同様に検定する。2006 年から 2016 年までに公開された洋画について、大量の母集団の中から、110 個の標本を抽出し、グループ分けをしたところ、「左」の数は 9、「右」の数は 20、「なし」の数は 81 であった。母集団(2006 年から 2016 年までに公開された全ての洋画)の「左」、「右」、「なし」率をそれぞれ 95%の信頼度で検定する。

・抽出された標本に対する

「左」率は  $R=9/110=0.0818$

「右」率は  $R=20/110=0.1818$

「なし」率は  $R=81/110=0.7363$

検定より、母集団、2006 年から 2016 年に公開された全ての洋画作品についての「左」率は 3%～13%、「右」率は 10%～25%、「なし」率は 64%～81%となる。洋画においても現代の日本と同じく、特定の「目の動き」を取り入れているポスターがほとんどないという結果になった。また、1950 年代では邦画よりも洋画の方がポスターの向きが定められていないものが多かったが、現代では日本の方が鑑賞する向きに対する意識が低くなっており、アメリカの方が日本

よりも「自然な目の動き」が残っていた。「視覚のグローバル化」は日本の方が進んでいるようだ。

向きが特定できないものが多い現代の映画ポスターに関して、現代の邦画のランキング上位の作品はアニメ映画が多いことが一つの原因になっているように思われる。「ポケットモンスター」、「ドラえもん」、「名探偵コナン」などの劇場版のアニメ作品は2006年から2016年までの間毎年10位以内にランクインしており、このほとんどの作品で向きが特定できないポスターになっていた。また、「ドラゴンボール」、「ワンピース」、「クレヨンしんちゃん」、「エヴァンゲリオン」など毎年ではないが、興行収入ランキング上位にランクインしているこれらのアニメ作品もまた、ポスターに関しては向きが特定できないものばかりであった。アニメ作品のポスターは、多くの登場人物をポスターの中に配置しているのが特徴的であり典型的であった。その登場人物たちはそれぞれが異なった方向を向いているものや、正面を向いているものが多く、アニメ作品は、「自然な目の動き」よりもほかに鑑賞者の心を掴むためのなんらかの特殊な視覚的戦略がありそうだ。

1950年代と現代のデータを比べると、1950年代は日本もアメリカもそれぞれの国において、伝統的な「自然な目の動き」が文化の中、本研究においては視覚表現である映画ポスターの中にしっかりと根付いていたように思われる。これは小津安二郎監督が映画を撮る上でそうであったように作り手側が観客の視線をしっかりと誘導していたからではないだろうか。作り手たちが文化の中に根付いてきた「自然な目の動き」を大切にしていたのだろう。そして伝統的な目の動きでモノを見る文化を新しい視覚文化であった映画の中にも取り入れたと考えられる。

それが現代になると日本でもアメリカでも一変する。仮説の段階では日本人の伝統的な「自然な目の動き」は失われ、英語話者たちの「自然な目の動き」へシフトしているのではないかと考えた。しかし日本語話者にとっての「自然な目の動き」は確かに失われていたが、西洋化して米的な目の動きに切り替わったわけではなかった。「自然な目の動き」というものの自体が失われ、モノをどう見るか、モノの動き、鑑賞物の流れがどうであるかという事に対して大きな注意を払わなくなってきたようである。それは英語話者たちも言えることであった。日本語話者だけでなく、英語話者たちにとっての「自然な目の動き」も失われていることが分かった。我々現代人はモノの動きがどのようなであっても違和感なく受け入れることが出来るようになってきているようだ。

このように視覚文化にもグローバル化が広まり浸透してきていることが分かった。どこかの国の文化が広まるわけではなく、どの国の人々も受け入れやすい文化に変化してきているようである。



この現象の背景には「社会」のグローバル化の動きが反映されているのではないかと考える。グローバル化は大航海時代から行われてきたと言われているが、言葉通り地球規模で進行が進んだのは第二次世界大戦以降である。ちょうどこの研究で現代と比較した 1950 年代はグローバル化の大きな進行が始まった時代だったのである。1950 年以降の社会の流れとして、ヒト・モノ・カネ・情報の国際的な流動化が進行した。それを促す公的機関や制度が整えられ、科学技術の発展もこのグローバル化の流れに大きく貢献したのである。

ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル化は人々の暮らしの中に定着し、日常生活自体も国によって差がないものに変えてゆく。それにより文化のグローバル化も同時に進行してきたのであろう。

また、前述した視覚文化のグローバル化は文字文化のグローバル化の反映であるともいえる。先行研究で論じられているように、人が自然だと感じる目の動きは、文字を追う目の動きに追随する。それが文字だけでなく日常のあらゆるモノの動きにも反映されるのである。その文字文化のグローバル化を支えたものは、「コンピューター」だと考えられる。日本国内についての視覚文化のグローバル化について考察してゆく。

日本語はもともと右から左へ縦書きの行を書き連ねていく縦書き文化であり右から左へ視線が移動する文化であったことを述べてきた。屋名池(2003)によると、日本語は江戸時代までは縦書き専用であり、日本が西欧の文化・技術を取り入れた幕末から明治にかけての時代は、日本語の書字についても混沌の時代になったのは必然であるという。縦書きと右横書き、左横書きのどれもが生活の中に存在したのだ。それが、戦後になり左横書きが増え公的な文書などがすべて左横書きになった。このように生活の中で「見る」文字や文章に関しては左横書きが定着していったことが分かるが、「書く」ことについてはどうだろうか。日本人は左横書きが定着しても、学校教育の場や、大学での論文などは縦書きで書くことの方が多かったに違いない。それが変化したきっかけはワードプロセッサの登場ではないだろうか。初期の日本語ワードプロセッサは縦書きであったようだが、左横書きを採用し、左横書きが定着した。アラビア数字の入力やアルファベットを文章中に交えることが多くなってきたことが原因だと思われる。

2000 年代以降、ワードプロセッサやコンピューターが普及しそれまで以上に横書きで文字を書いていく機会が私たち日本人には増えてきた。横書きの文字を「見る」だけでなく「書く」ことにおいても日常生活の中に取り入れそれが自然になってきているのである。また、現代ではスマートフォン、インターネットの影響でますます左横書きが生活の中に溢れている。それらで文章を見たり打ち込んだりする際にはたいていが左横書きであるからだ。このように生

活の中の文字は横書き化(西洋化)が進んでいるが、小説や国語の教科書などはいまだ縦書きを採用している。世界の中でも異なる二つの書字方向を採用している国は少なく、日本は特殊であると言える。この状況がさらに私たちの視覚文化、「自然な目の動き」を混乱させているようだ。

他方、英語話者たちにおいては、生活の中の文章は伝統的な左横書きのままに違いない。では、なぜアメリカにおいても「自然な目の動き」が失われグローバルなものに変化しているのか。それについては、こちらもインターネットの普及が関係しているようだ。英語文化の中にも様々な国の文化や情報をすぐに手に入れることができる。近年、日本文化の代表的なものとして海外で定着した日本の「アニメ」だが、海外でのテレビアニメの放送で人気が出た。さらに、インターネットが普及し興味のある層が情報を手に入れやすくなり、現在のような人気が出てきたと言えよう。その普及により多くの原作の漫画単行本が英語をはじめ様々な言語に翻訳され、海外で出版されている。日本での漫画はページを右から左へとめくっていき、話も右から左へと進むようになっている。そのためか登場人物たちの言葉や文章なども縦書きで書かれている。それが英語に翻訳されると文章は左横書きになるが、ページをめくっていく方向や話の進む方向は日本と同じままである。文字の流れと物語の流れが逆になってしまい違和感を覚えるはずであるが、長い間変更されてきていない。このように、英語話者たちの生活の中にも様々な視覚文化が溢れてきており、日本と同じように視覚文化のグローバル化が進んでいるようだ。

例：日本の漫画「ワンピース」の原版の一部と英語翻訳版の同じシーン  
(英語版) (原版)



<sup>30</sup> [http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp/024/438/56/N000/000/000/132387819716813201601\\_Luffy02.jpg](http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp/024/438/56/N000/000/000/132387819716813201601_Luffy02.jpg)

## 5.2. 好まれる視覚表現についての考察

映画ポスターを収集するうちに、原版のポスター以外にも、その映画作品の「顔」になるVHSやDVDの表紙などを多く目にする機会があった。同じ作品でも時代が変わるごとに、その「表紙」は変更がなされ時代に合ったものに変更されていた。1951年に公開された小津安二郎監督の日本映画、「麦秋」を例に挙げる。



32

(1951 年)



33

(2007 年)

左側が公開当時の映画ポスターであり、右側が2007年にDVD化され発売された際の表紙となった画像である。公開当時のものは登場人物が左を向いた左から右へ目が移動していく日本的な構図になっているが、2007年の物は何んかの登場人物が左側に配置され左から右を向いている。現代になって私たちの目に入るものは左から右へ目が動いていくような西洋的な構図になっているといえる。

このように、同じ国内の中で時代によって変更させられているものもあれば、林(2016)で指摘したように、同じ作品であっても海外への輸出、海外からの輸

<sup>31</sup> [http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp/024/438/56/N000/000/000/132387814340413128162\\_Luffy01.jpg](http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp/024/438/56/N000/000/000/132387814340413128162_Luffy01.jpg)

<sup>32</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwigk66YvsjRAhUCy7wKHcyQAYAQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fgenir.sakura.ne.jp%2Fsaburiposterjpg00011.jpg&psig=AFQjCNE4xAjLm7MRGXnpITe-q\\_RMlyZgg&ust=1484718660837125](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwigk66YvsjRAhUCy7wKHcyQAYAQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fgenir.sakura.ne.jp%2Fsaburiposterjpg00011.jpg&psig=AFQjCNE4xAjLm7MRGXnpITe-q_RMlyZgg&ust=1484718660837125)

<sup>33</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fimages-na.ssl-images-amazon.com%2Fimages%2F%2F51814tPuzbL.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.amazon.co.jp%2F%25E9%25BA%25A6%25E7%25A7%258BDVDCOS022-%25E5%258E%259F%25E7%25AF%2580%25E5%25AD%2590%2Fdp%2FB000VRRD1G&docid=Q2m0wxzSPugNM&tbid=hNgddigO4V9R\\_M%3A&vet=1&w=351&h=500&bih=627&biw=1366&q=%E3%80%80%E9%BA%A6%E7%A7%8B%E3%80%80EF%BC%A4EF%BC%B6EF%BC%A4&ved=0ahUKEwjcmf8wcvRAhVDvLwKHcuKDm4QMwgdKAMwAw&iact=mrc&uact=8](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fimages-na.ssl-images-amazon.com%2Fimages%2F%2F51814tPuzbL.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.amazon.co.jp%2F%25E9%25BA%25A6%25E7%25A7%258BDVDCOS022-%25E5%258E%259F%25E7%25AF%2580%25E5%25AD%2590%2Fdp%2FB000VRRD1G&docid=Q2m0wxzSPugNM&tbid=hNgddigO4V9R_M%3A&vet=1&w=351&h=500&bih=627&biw=1366&q=%E3%80%80%E9%BA%A6%E7%A7%8B%E3%80%80EF%BC%A4EF%BC%B6EF%BC%A4&ved=0ahUKEwjcmf8wcvRAhVDvLwKHcuKDm4QMwgdKAMwAw&iact=mrc&uact=8)

入の際に鑑賞する向きが変更させられているものも数多く存在した。

2005 年公開のアメリカ映画「キング・コング」は、左側のアメリカ版は、キング・コングが右を向いており鑑賞者は左から右に目が動いていくような構図になっているが、日本国内向けの映画ポスターとなるとキング・コングが今度は左を向いたものになっている。これはその国内の人々の自然な目の動きに合わせて変更させられたのではないかと考えることができる。



34

(米版)



35

(日本版)

また、ポスターに反映されている言語圏の文化は視覚文化だけではないようだ。何作品かの洋画ポスターについてその原版(アメリカ版)と日本版を収集したところ、ある共通点が見受けられた。洋画ポスターにおいて特徴的であったのは、ポスター内の人物がまっすぐ前を見つめ鑑賞者と目が合うような構図になっているものが多く存在したのである。一方で同じ映画の日本版ポスターを見てみると、ポスターに使われているシーンや構図にはほとんど変更点はないものの人物が目を見下ろし鑑賞者とポスター内の人物の目が合わないように変更

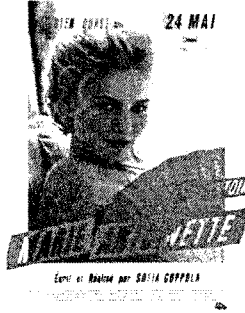
<sup>34</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjbTPwsvRAhXIJ5QKHRsJAakQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Ffusarambler.cocolognifty.com%2Fmovie%2Fimages%2Fking\\_kong2.JPG&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGh8yEJQaNPjpnxEN5LNcw9ZX9rWQ&ust=148482289847298](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwjbTPwsvRAhXIJ5QKHRsJAakQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Ffusarambler.cocolognifty.com%2Fmovie%2Fimages%2Fking_kong2.JPG&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGh8yEJQaNPjpnxEN5LNcw9ZX9rWQ&ust=148482289847298)

<sup>35</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwib2sL9wsvRAhUJHJQKHW9cA6gQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fuserdisk.webry.biglobe.ne.jp%2F005%2F442%2F49%2FN000%2F000%2F003%2F126378910470316424079\\_kingkong05nw1.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNE8pjooiCR3qEDWUrKAmo2NwEw2rQ&ust=1484822995594869](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwib2sL9wsvRAhUJHJQKHW9cA6gQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fuserdisk.webry.biglobe.ne.jp%2F005%2F442%2F49%2FN000%2F000%2F003%2F126378910470316424079_kingkong05nw1.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNE8pjooiCR3qEDWUrKAmo2NwEw2rQ&ust=1484822995594869)

されていたのである。その例として以下に 3 作品を示す。

(a) マリー・アントワネット

36

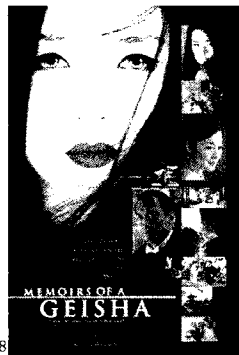


37



(b) SAYURI

38



39

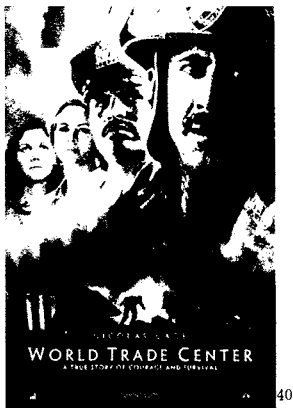


<sup>36</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwimi7fG687RAhUBfbwKHb3sC2UQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimgc.allpostersimages.com%2Fimages%2FP47348890%2F56%2F5665%2FQF3UG00Z%2Fposters%2F%25E3%2583%259E%25E3%2583%25AA%25E3%2583%25BC%25E3%2583%25BB%25E3%2582%25A2%25E3%2583%25B3%25E3%2583%2588%25E3%2583%25AF%25E3%2583%258D%25E3%2583%2583%25E3%2583%2588.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGv92UoGQC\\_BaJSXVFqisW8jYV1w&ust=1484936599782858](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwimi7fG687RAhUBfbwKHb3sC2UQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fimgc.allpostersimages.com%2Fimages%2FP47348890%2F56%2F5665%2FQF3UG00Z%2Fposters%2F%25E3%2583%259E%25E3%2583%25AA%25E3%2583%25BC%25E3%2583%25BB%25E3%2582%25A2%25E3%2583%25B3%25E3%2583%2588%25E3%2583%25AF%25E3%2583%258D%25E3%2583%2583%25E3%2583%2588.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGv92UoGQC_BaJSXVFqisW8jYV1w&ust=1484936599782858)

<sup>37</sup> [http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiWlfn6s7RAhWG2LwKHSGIAVcQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fblogimg.goo.ne.jp%2Fuser\\_image%2F13%2F0f%2F86eac143a756c7236e397a4be9272f46.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGv92UoGQC\\_BaJSXVFqisW8jYV1w&ust=1484936599782858](http://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwiWlfn6s7RAhWG2LwKHSGIAVcQjBwIBA&url=http%3A%2F%2Fblogimg.goo.ne.jp%2Fuser_image%2F13%2F0f%2F86eac143a756c7236e397a4be9272f46.jpg&bvm=bv.144224172,d.dGc&psig=AFQjCNGv92UoGQC_BaJSXVFqisW8jYV1w&ust=1484936599782858)

<sup>38</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fwww.movieposter.com%2Fposters%2Farchive%2Fmain%2F91%2FMPW45564&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.movieposter.com%2Fposter%2FMPW45564%2FMemoirs\\_of\\_a\\_Geisha.html&docid=GYVWQ9udeo jv0M&tbnid=L3ILwnFErf9sM%3A&vet=1&w=500&h=741&bih=598&biw=1366&q=geisha](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fwww.movieposter.com%2Fposters%2Farchive%2Fmain%2F91%2FMPW45564&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.movieposter.com%2Fposter%2FMPW45564%2FMemoirs_of_a_Geisha.html&docid=GYVWQ9udeo jv0M&tbnid=L3ILwnFErf9sM%3A&vet=1&w=500&h=741&bih=598&biw=1366&q=geisha)

(c) ワールド・トレード・センター



40



11

西洋人は会話の際、対話の相手と目を合わせることが普通であり、そのような会話の仕方が誠実であるという印象を与える。一方、日本人は目を合わせずに会話をすることが多い。言語把握の仕方や文字文化だけではなくこのような会話の仕方の差異やその文化もそれぞれの国の映画ポスターに反映されているようだ。

%20film%20poster&ved=0ahUKEwjRrPkmtHRAhUEW7wKHXYSzcEQMwgbKAeWAA&iact=mrc&uact=8

<sup>39</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fiwizmovies.c.yimg.jp%2Fc%2Fmovies%2Fpict%2Fp%2Fp%2Fab%2F27%2F144243\\_01.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fmovies.yahoo.co.jp%2Fmovie%2FSAYURI%2F321931%2F&docid=rwVKf\\_Ii9k1gM&tbnid=pCfSj4mca\\_WVwM%3A&vet=1&w=550&h=780&bih=598&biw=1366&q=sayuri&ved=0ahUKEwjJxdeJmtHRAhWBERwKHZg5BboQMwgfKAAwAA&iact=mrc&uact=8](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fiwizmovies.c.yimg.jp%2Fc%2Fmovies%2Fpict%2Fp%2Fp%2Fab%2F27%2F144243_01.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fmovies.yahoo.co.jp%2Fmovie%2FSAYURI%2F321931%2F&docid=rwVKf_Ii9k1gM&tbnid=pCfSj4mca_WVwM%3A&vet=1&w=550&h=780&bih=598&biw=1366&q=sayuri&ved=0ahUKEwjJxdeJmtHRAhWBERwKHZg5BboQMwgfKAAwAA&iact=mrc&uact=8)

<sup>40</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fwww.joblo.com%2Fposters%2Fimages%2Ffull%2F2006world\\_trade\\_center2.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fwww.joblo.com%2Fmovieposters%2F2006%2Fworldtradecenter&docid=MjvqnJFCDAte7M&tbnid=YQvNoxVe4ohafM%3A&vet=1&w=842&h=1191&bih=598&biw=1366&q=world%20trade%20center%20film%20poster&ved=0ahUKEwjYjM3lmtHRAhVEUbwKHZL\\_BxEQMwgaKAAwAA&iact=mrc&uact=8](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fwww.joblo.com%2Fposters%2Fimages%2Ffull%2F2006world_trade_center2.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fwww.joblo.com%2Fmovieposters%2F2006%2Fworldtradecenter&docid=MjvqnJFCDAte7M&tbnid=YQvNoxVe4ohafM%3A&vet=1&w=842&h=1191&bih=598&biw=1366&q=world%20trade%20center%20film%20poster&ved=0ahUKEwjYjM3lmtHRAhVEUbwKHZL_BxEQMwgaKAAwAA&iact=mrc&uact=8)

<sup>41</sup> [https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fecx.imagesamazon.com%2Fimages%2FI%2F51NzkuDqcL\\_SS500\\_.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fravepad.com%2Fpage%2Fworldtradecenter%2Fimages%2Fview%2F368440%2FTradeCenterMoviePoster&docid=CJoXj6\\_jk0oivM&tbnid=nuKsRDjrt2lmM%3A&vet=1&w=500&h=500&bih=598&biw=1366&q=world%20trade%20center%20film%20poster&ved=0ahUKEwjYjM3lmtHRAhVEUbwKHZL\\_BxEQMwgrKBEWEQ&iact=mrc&uact=8](https://www.google.co.jp/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Fecx.imagesamazon.com%2Fimages%2FI%2F51NzkuDqcL_SS500_.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Fravepad.com%2Fpage%2Fworldtradecenter%2Fimages%2Fview%2F368440%2FTradeCenterMoviePoster&docid=CJoXj6_jk0oivM&tbnid=nuKsRDjrt2lmM%3A&vet=1&w=500&h=500&bih=598&biw=1366&q=world%20trade%20center%20film%20poster&ved=0ahUKEwjYjM3lmtHRAhVEUbwKHZL_BxEQMwgrKBEWEQ&iact=mrc&uact=8)

## 6. 結論・展望

本稿の結論は以下の2点である。

- 1950年代の日本においては、邦画ポスターに日本語話者の伝統的な「自然な目の動き」が反映されていた。同様に、1950年代のアメリカにおいては、洋画ポスターに英語話者の伝統的な「自然な目の動き」が反映されていた。
- 現代の日本・アメリカのどちらにおいても、映画ポスターの中にある特定の「目の動き」は確認することが出来ず視覚文化のグローバル化が起きていた。

視覚文化のグローバル化は確かに起きてはいるが、伝統的な「自然な目の動き」は日本でもアメリカでもいまだ存在し、向きが特定できないものには違和感を覚えることがなくとも、自国の視覚文化と反対の動きをするものには違和感を覚えるのかもしれない。すべての年代においてより多くのデータを収集することで我々の視覚文化にどのような変化が起きているのかがより明確になるだろう。また、1950年代から現代まで毎年のデータを比較していくことで、どの年代から伝統的な視覚文化が失われていったのか、その背景には何があったのかを明らかにすることができるであろう。

会話の仕方の好み文化なども視覚文化に表れていそうな片鱗が見られた。言語全般においての好みが多様な文化に影響を与えていそうである。これらは今後の課題とする。

## 参考文献

- 熊倉千之(1990):『日本人の表現力と個性 新しい「私」の発見』. 中央公論社(中公新書).
- 林佐和子(2016):「映画ポスターの日英比較 ―認知言語学観点から―」. 金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習『論文集』第11巻, pp. 1-27.
- 屋名池誠(2003):『横書き登場』. 岩波書店(岩波新書).
- 「年代流行」<<http://nendai-ryuukou.com/>> 2016年10月アクセス.